

報告書抄録

ふりがな	こしたかいせき めおとしいせき							
書名	越高遺跡 夫婦石遺跡							
シリーズ名	考古学研究室報告							
シリーズ番号	51							
編集者名	山元 瞭平 (やまもと りょうへい)							
発行機関	熊本大学文学部考古学研究室							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40-1 TEL. 096-344-2111 (代表)							
発行年月日	2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こしたかいせき 越高遺跡	ながさきけん 長崎県 つしまし 対馬市 かみあがたまち 上県町 こしたか 越高	42209	78-28	34° 33' 01"	129° 19' 23"	2015/08/16～2015/08/24 計9日間	2.115m <sup>2</sup>	学術調査
めおとしいせき 夫婦石遺跡	ながさきけん 長崎県 つしまし 対馬市 かみあがたまち 上県町 くぼら 久原	42209	78-36	34° 31' 18"	129° 18' 37"	2015/08/10～2015/08/15 2015/08/19～2015/08/24 計12日間	4 m <sup>2</sup>	学術調査
所収遺跡	種別	時代		遺構		遺物	特記事項	
越高遺跡	遺物 包含地	縄文時代早期末 ～前期前葉		—		隆起文土器・石器	AMS年代測定実施	
夫婦石遺跡	遺物 包含地	縄文時代前期～後期 弥生時代 古墳時代後期		—		縄文土器・弥生土器・土 師器・須恵器・石器		
備考	<p>越高遺跡の北緯と東経は世界測地系による。ただし、その数値は国土地理院ホームページの基盤地図情報閲覧サービスによるもので、基準点測量によって得たものではない。上がA地点、下がB地点の数値である。</p> <p>夫婦石遺跡の北緯と東経は基準点P1の世界測地系による。</p>							

## 2015年度 研究室の足跡

- 4月1日 学部生5名進学、研究生1名・大学院博士前期課程1名入学
- 6月5日～6月7日 文学部・大学院集中講義「古代アンデス文明の形成」  
国立民族学博物館 関 雄二先生
- 7月29日～7月31日 小畑弘己教授 文家屯遺跡圧痕調査（京都大学）
- 8月10日～8月24日 長崎県対馬市にて越高遺跡・夫婦石遺跡の発掘調査
- 8月29日～9月6日 小畑弘己教授 モンゴル アウラガ遺跡種実調査・シャヴァルアルブラク遺跡踏  
査
- 9月1日～9月10日 熊本県阿蘇市にて上御倉古墳の石室実測調査
- 9月18日～9月21日 大学院集中講義「文化財保護論－文化財保護の制度と行政－」  
公益財団法人文化財虫菌害研究所 和田勝彦先生
- 9月20日～9月27日 小畑弘己教授 中国王家村遺跡土器圧痕調査（山東省済南市・山東大学）
- 10月18日 杉井 健准教授 「日本考古学協会2015年度奈良大会 分科会Ⅲ」にて  
「熊本大学における考古学教育－考古学の楽しさを伝えるために－」を發表
- 11月1日～11月3日 大学院集中講義「日本考古学と文化財保護行政」  
奈良大学文学部教授 坂井秀弥先生
- 11月18日 研究室による継続した遺跡の調査および報告書刊行の活動が認められ、  
『熊本大学平成27年度教育活動表彰』を受賞
- 1月12日 修士論文提出  
黄 訳民 「東アジアにおける貝製品の研究  
－中国出土のタカラガイ模造品について－」  
與嶺友紀也「グスク時代における煮沸用土器の転換について  
－沖縄諸島を中心に－」
- 卒業論文提出  
津田祐美 「中九州における古墳時代人の形質研究」  
豊永結花里「土器圧痕から見た中九州縄文後晩期の植物利用」  
秦 翔平 「ペルー ナスカ地域における土器研究」  
幣島莉香 「中九州出土土偶の研究」  
松本夏織 「玉類からみる良積遺跡」
- 2月10日 卒業論文・修士論文口頭試問会
- 3月25日 学位授与式 学部生5名、大学院生2名を送る
- 3月31日 『考古学研究室報告』第51集刊行

## 考古学研究室報告 第 51 集

発行年月日 2016年 3月31日

編集・発行 熊本大学文学部考古学研究室  
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2丁目40-1  
Tel. 096-344-2111 (代表)

印 刷 シモダ印刷株式会社  
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺 2丁目16-16  
Tel. 096-383-5512  
Fax. 096-386-5454